

廃アルミで自転車充電 都内電力支援に一役

北陸グリーンエネ研 北陸以外で初



廃棄物のアルミを利用した電動アシスト自転車の充電＝1日、東京都文京区

北陸3県の産学官でつくる北陸グリーンエネルギー研究会は1日から、廃棄物となった紙パックなどのアルミを使い、水素エネルギーを発生させて、電動アシスト自転車を充電する試みを東京都内のレンタル自転車駐輪場で始めた。8月末まで実施し、節電に協力するとともに廃棄物を活用した新エネルギーをアピールする。

ジュースの紙パックや菓子箱の内側に使われているアルミニウムを再利用し、水酸化ナトリウムと反応させて発生した水素を燃料電池に送り込み発電する仕組み。約60の企業、大学、自治体で構成し2009年に発足した同研究会で技術を開発した。今回は、電力不足が心配される夏場に少しでも電力支援になればと、研究会の技術を使って東京都文京区が運営する同区春日1丁目のレンタル自転車駐輪場で、電動アシスト自転車のバッテリーを充電することにした。

この技術を北陸地方以外で披露するのは初めて。

同区の電動アシスト自転車は80台あり、期間中に使用するアルミの量は約10キログラムで、ゴミ袋3袋程度という。標準的なタイプで空の状態からフル充電するには3〜5時間かかるが、空の状態まで使用する人もいないことから、十分対応できるとしている。

同研究会の川口清司副会長は「電力不足の折、開発した技術を少しでも役立ててもらえれば」と話し、「同時にこの北陸発の技術を関東でもアピールしていきたい」と強く反応させて発生した水素を調整していた。